



四万十累層群中の枕状溶岩（古第三紀，四万十累層群神門層，宮崎県東臼杵郡南郷村阿切）

四万十累層群中の塩基性岩は、泥岩中に主に枕状溶岩からなるブロックとして産することが多いが、この写真では珍しく、枕の重なり方や上位の地層との関係が明瞭に観察できる。

（上）枕状溶岩の上位に、赤色あるいは緑色の泥岩を挟んで黒色の泥岩が重なる。

（右）尾を引いた枕状溶岩。枕の形は一般に断面では楕円形、立体的にはつぶれた俵を連結したようなものが多いが、写真のように流れの方向（矢印、長さ約 20cm）が分かる例もある。低度の変成作用を受けているが、ほぼ原形をとどめている。

（ともに5万分の1地質図幅「神門」図版から転載）。

（地質部 奥村公男）

